

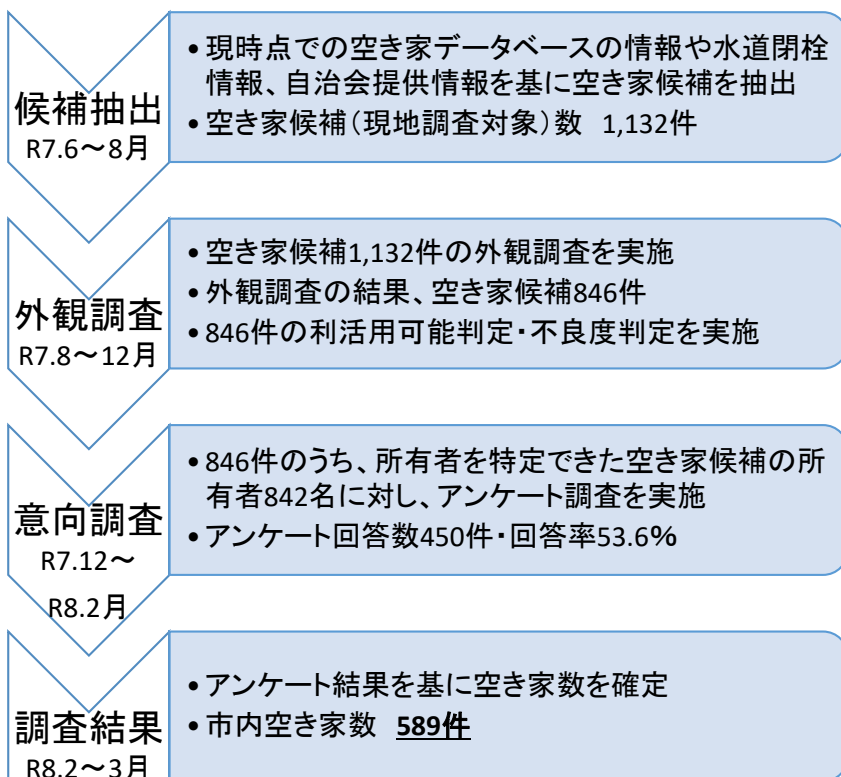
令和7年度空き家実態調査の結果について

資料3

【調査趣旨】

適切な管理が行われていない空き家が防災、衛生、景観等の観点から、地域住民の生活環境に悪影響を及ぼし、問題となっていることから、市では、令和2年度に実態調査を行い、その結果を踏まえて滝沢市空家等対策計画を策定しました。今回の実態調査は前回の調査から5年が経過し、空き家に増減や状態の変化が生じていることから、その変化を捉え、それに対応した空家対策計画の改訂のための基礎データを得ることを目的に実施しました。

1 調査概要



滝沢市内住宅総数 25,130戸
空き家数 589戸（R2調査578戸 +11戸）
空き家率 2.3%（R2調査2.4% 0.1ポイント減）

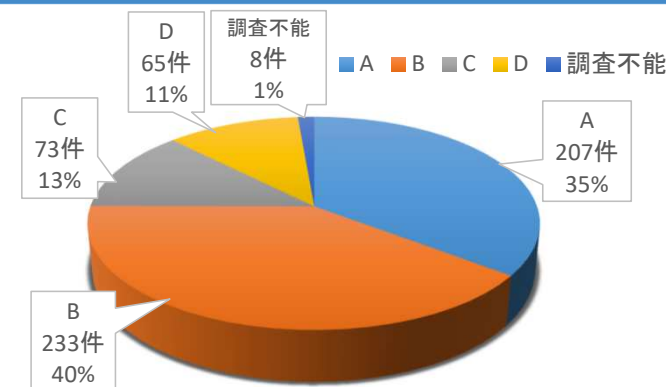
2 外観調査結果

不良度判定結果

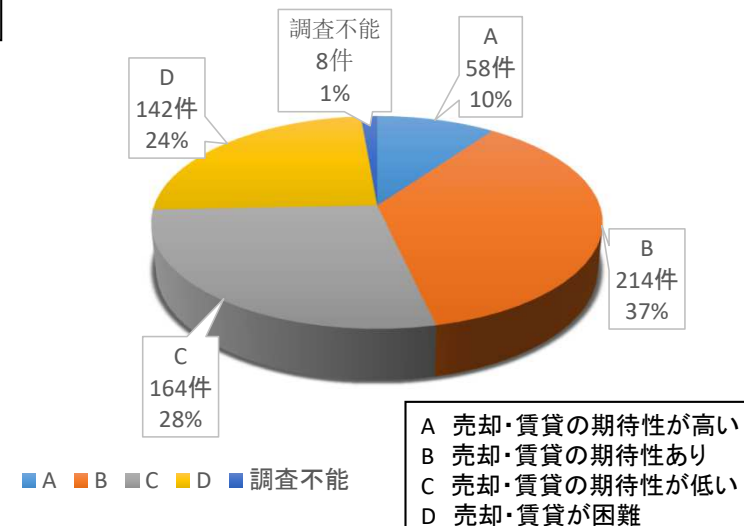
C・Dランクは管理状態が悪く、合計で約24%の空き家が管理状態が悪い結果となりました。
いずれも特定空家等の候補となりうるものであり、特にDランクは緊急度が高いため、早急な対策が必要となります。

利活用可能判定結果

利活用の期待性が高いAランクは10%と少数でしたが、比較的小規模な修繕で利活用可能と期待されるBランクは37%でした。A・Bの合計で約47%の空き家が利活用の可能性が期待できる結果となりました。



A 管理に特段問題がなく、現況のまま利用可能
B 管理が行き届いていないが、比較的小規模な修繕で利用可能
C 倒壊の可能性はないが、現況のまま利用は困難
D 倒壊の可能性があるなど、現況のままの利用は不可能



A 売却・賃貸の期待性が高い
B 売却・賃貸の期待性あり
C 売却・賃貸の期待性が低い
D 売却・賃貸が困難

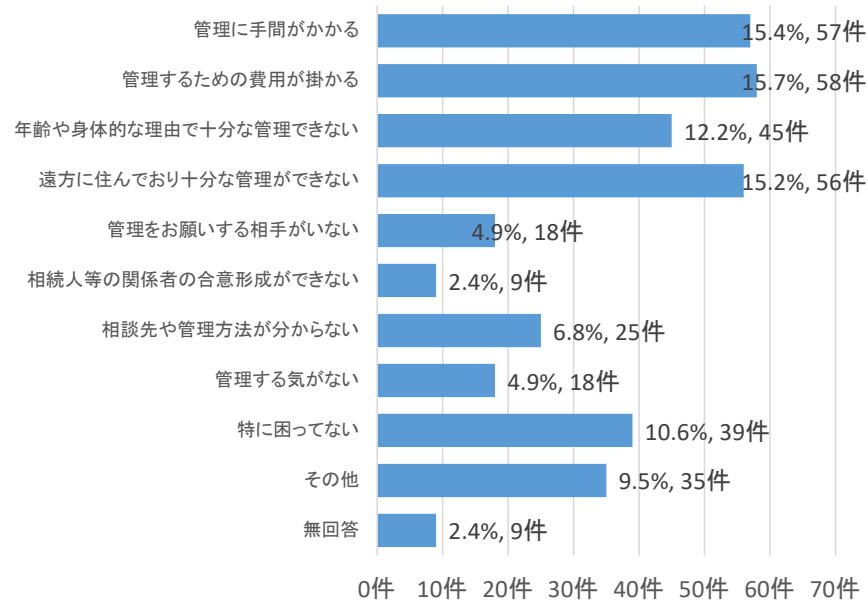
3 意向調査結果

【調査概要】

送付方法・・・郵送による送付 送付数・・・846件 回答数・・・450件 回収率・・・53.6%

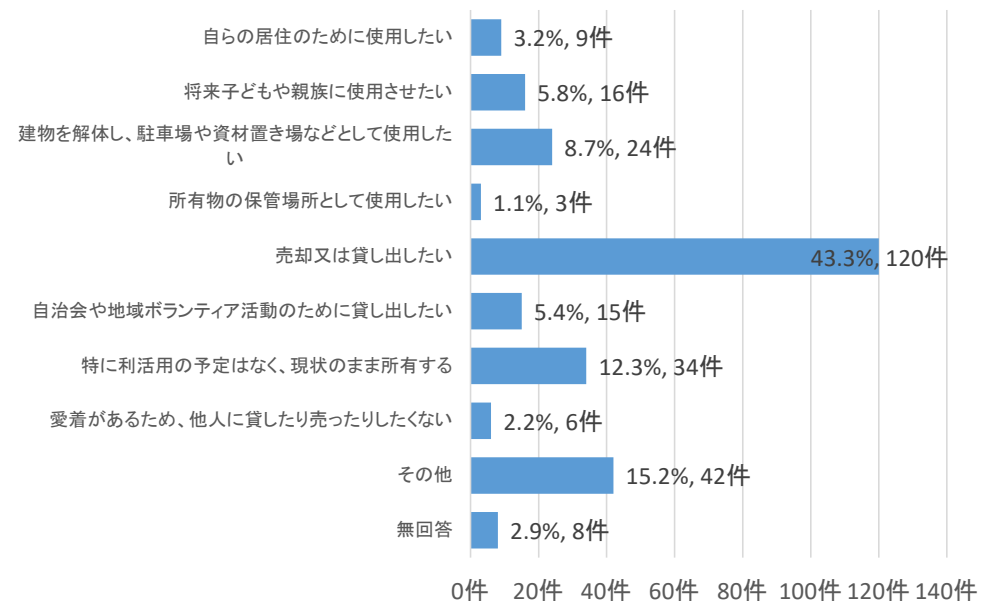
【問】この建物の管理で困っていることは何ですか？

「管理するための費用がかかる」が58件(15.7%)と最も多く、次いで「管理に手間がかかる」が57件(15.4%)、「遠方に住んでおり十分な管理ができない」が56件(15.2%)と続いています。



【問】この建物を今後どのように活用したいですか？

「売却したい、又は貸し出したい」が120件(43.3%)と最も多く、次いで「その他」が42件(15.2%)、「特に利活用の予定はなく、現状のまま所有する」が34件(12.3%)と続いています。



4 今後の方針

- ①空き家に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために空家等対策計画の改訂を行います。
- ②危険な空き家に対する対策を検討・実施します。
- ③空き家バンクや各種補助金等の利用を促し、利活用可能な物件を市場に流通させる施策の推進を図ります。
- ④空き家データベースを更新し、システムにより市内の空き家を一元管理します。